

【食と農林漁業大学生アワード 2019】

①活動のきっかけ・目的

はじめに、私たちの活動のきっかけについて説明します。私たちが経営しているカフェ、「和 café ぐう」ができた経緯です。直島のあちこちにアート作品がつくられることによって、観光客が増加しました。当時カフェが少なかったこともあり、飲食店や休憩する場所が不足してしまいました。そこで、学生の中でアートと自然のある直島で人との出会いを創出したいという思いが生まれました。この、直島の問題と、学生の思いから、私たちがカフェを開こうということになったそうです。今年8月に、カフェは13周年を迎えました。

そんな私たちの活動の目的は、「交流の場の創出」です。いったい誰と誰の交流なのか。答えの一つとして、私たちのカフェでは、「あしあと帳」というものがあります。私たちのカフェを訪れたお客様が、今の旅で感じたことを思い思いに書き留めてあるものです。私たちはその思いに対するコメントを返信しています。つまりこれは、旅人と旅人、そして旅人と私たちをつなぐノートになっています。

また、旅人だけでなく、島の人との交流も大切にしています。島の様々なイベントに参加することにより、島の子供たちや、地域の方との交流も深めています。毎年夏休みに「自然探検隊」というものを行うのですが、そこで子供たちと海についての勉強をしたり、一緒に海で遊んだり、カレーを作って食べたり…というようなイベントもあります。

他大学の人との交流も積極的に行っています。これも毎年夏休みに、「全国まちづくりカレッジ」というものがあり、全国の地域活性化をしている大学生が集まって交流を深めるものです。今年は北海道で2日間にわたり行われ、私も参加してきましたのですが、自分たちとは違った視点から地域活性化している人との交流はとても刺激を受けられて、良い経験になりました。

そして、私たちの活動を支えてくれている「ういらぶなおしま」の人たちとの交流です。「ういらぶなおしま」とは、直島の住民主体のボランティア団体のことです。私たち直島地域活性化プロジェクトの活動を報告するために、月に一回、「ういらぶ定例会」というものに出席しています。

このようにして、私たちのプロジェクトは交流の場を創出し、その交流を大切に活動しています。

②活動内容及び成果

私たちのプロジェクトの構成を説明します。代表、副代表の下に5つの部門があります。シフトやマニュアルを管理する総務、お金の管理をする経理、カフェの内装の展示やイベントの企画をする総合企画、メニューの考案をする商品開発、SNSで活動の発信をする広報があります。メンバーは必ずどの部門かに属し、プロジェクトのために動いています。

「和 café ぐう」は直島の古民家をお借りして経営しています。私たちは毎週土曜日、日曜日、祝日に直島に向かい、カフェの営業をしています。メンバーがだいたい月に1~2回平等にシフトに入っています。

次にカフェ以外の活動の紹介をします。

私たちは主に2つの大きな活動を行っています。「観光ボランティアガイド」と「豆腐プロジェクト」です。

まず、「観光ボランティアガイド」について説明します。一昨年度に船内ガイドを行ったときに、お客様から「島内も案内してほしい」というお声をいただきました。そして、昨年度からガイドの拠点を直島島内に移し、その中でも私たちのカフェがある本村地区でボランティアガイドを始めました。本村地区には「家プロジェクト」というものがあります。「家プロジェクト」とは、様々な現代アーティストによって古民家が丸ごと改修され、作品化したもののことを言います。そんな「家プロジェクト」を中心にガイドを行っています。昨年度は計7組のお客様をガイドし、これから4組のガイドの予約をいただいております。また、今年は瀬戸内国際芸術祭が開催されており、観光ボランティアガイドのアンケートを作成し、夏会期に私たちのカフェに訪れたお客様を中心にアンケートをとり、秋会期に向けてアンケートをもとに本村地区のエリアマップを作成しようと考えています。

次に「豆腐プロジェクト」です。直島の特産品である SOLASHIO をつくる過程でできるにがりや岡山県の宇野港で安く売られていました。しかし、これでは地産地消になりません。そこでにがりを使って直島産の豆腐を作ろうと考えたのがこのプロジェクトの始まりです。去年は直島小学校の生活科の授業で小学生と一緒に大豆の苗を植え、育った大豆で豆腐作りをしました。今年も大豆の苗を植え、現在もすくすく育っていて、9月に収穫予定です。収穫したら大豆の皮をむき、豆腐作りをするといったワークショップをする予定です。

③今後の展望

今後の展望として、カフェの方では新しいメニューを開発し、よりお客様が満足してくれるようなカフェをつくることです。観光ボランティアガイドの方では、まだ認知度が低いので、SNSなどで広報して、島を訪れる人の手助けができる活動をしていきたいと考えています。豆腐プロジェクトでは、直島産の豆腐を自分たちで作って自分たちで消費するだけでなく、観光客の方にもいただいてもらえるようになれば、と考えています。